授業科目名： 英語科指導法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校英語） 選択科目（高等学校英語）	単位数： ２単位	担当教員名：森　直樹 担当形態：単独

実務内容 （実務家教員の場合）	
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業のテーマ及び到達目標

・「５つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」及び「書くこと」）の指導について実践的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。
・「５つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」及び「書くこと」）の評価について実践的な知識と技能を身に付ける。特に「話すこと［やり取り・発表］」及び「話すこと」「書くこと」については、「パフォーマンス評価」（生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法）について実践的な知識と技能を身に付ける。

授業の概要

英語科指導法Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえて、主に「５つの領域」について、各自の実践力を高めるとともに、具体的な教材・ICT活用、指導と評価の方法を学ぶ。スクーリングにおける演習を通

して、各自の実践力、教材・ICT活用、指導と評価について自己評価・相互評価を行う。

授業計画

第１回：英語科指導法Ⅲの学修ポイント

第２回：「聞くこと」を軸とした実践力の向上

第３回：「読むこと」を軸とした実践力の向上

第４回：「話すこと［やり取り・発表］」を軸とした実践力の向上

第５回：「書くこと」を軸とした実践力の向上

第６回：「聞くこと」の教材・ICT活用、指導と評価

第７回：「読むこと」の教材・ICT活用、指導と評価

第８回：「話すこと［やり取り・発表］」の教材・ICT活用、指導と評価

第９回：「書くこと」の教材・ICT活用、指導と評価

第１０回：「聞くこと」指導演習

第１１回：「読むこと」指導演習

第１２回：「話すこと［やり取り・発表］」指導演習

第１３回：「書くこと」指導演習

第１４回：指導演習の振り返り

第１５回：「複数の領域を統合した言語活動」の教材・ICT活用、指導と評価

定期試験

※スクーリングでは第10回～第13回並びに15回を扱う。

教科書

中嶋 洋一 責任編集、直山 木綿子、久保野 雅史 編著『プロ教師に学ぶ真のアクティブ・ラーニング－“脳”動的な英語学習のすすめ』（開隆堂出版）

参考文献

・文部科学省『中学校学習指導要領〈平成２９年告示〉解説　外国語編』開隆堂出版

・文部科学省『高等学校学習指導要領〈平成３０年告示〉解説　外国語編』開隆堂出版

・『新・グローバル時代の英語教育: 新学習指導要領に対応した英語科教育法』（成美堂）（英語科教育法Ⅰ教科書）

・『新学習指導要領にもとづく英語科教育法　第３版』（大修館書店）（英語科教育法Ⅱ教科書）

・『授業力アップのための英語授業実践アイディア集』（開拓社）（英語科教育法Ⅳ教科書）

・『主体的・対話的で深い学びを実現する! 英語授業の発問づくり』（明治図書出版）

・『使える英語がどんどん身につく! 中学英語４技能ペア&グループワーク』（学陽書房）

・『アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校英語科の授業プラン』（明治図書出版）

学生に対する評価

レポート評価（２５％）スクーリング評価（２５％）科目修得試験（５０％）を総合して評価する。